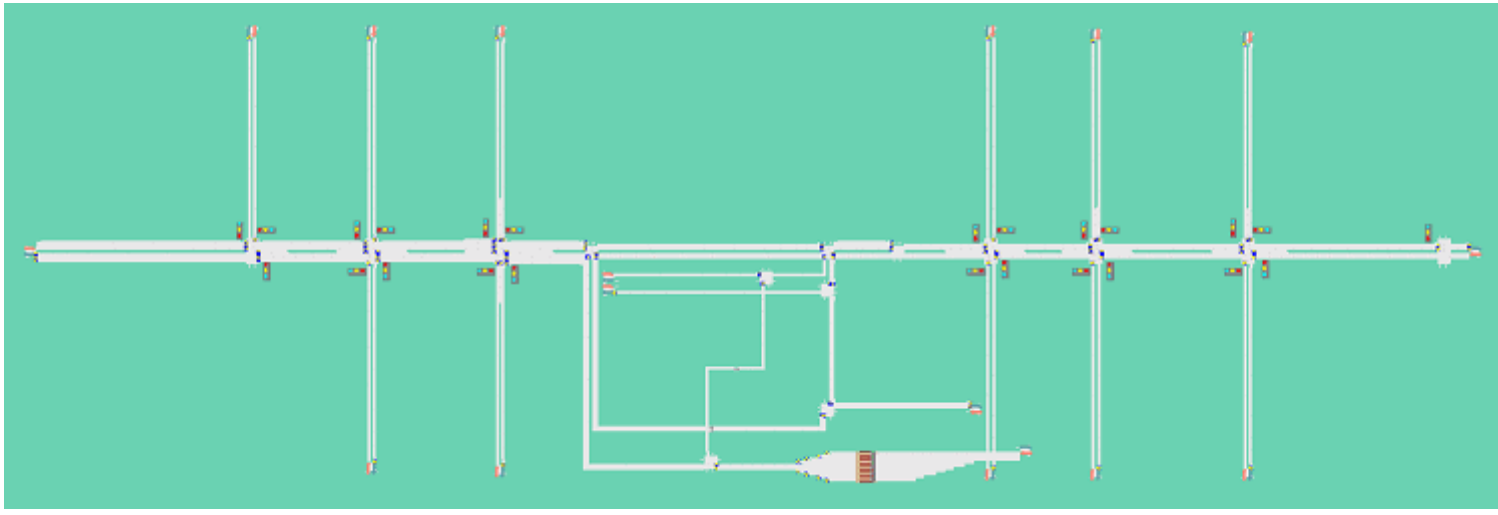


シミュレーションモデル適用事例シート

大分類	道路施設	小分類	インターチェンジ	シミュレーションモデル名	AVENUE				
概要	適用事例名	名古屋ICへの ETC 導入の影響評価について							
	目的・概要	本事例は、名古屋ICへの ETC の導入により、ETC 普及率 10% (平成12年)、20% (平成13年)、30% (平成14年)、50% (平成17年) の各年次におけるの周辺交通への影響評価を行うことを目的とする。							
	本事例におけるモデル適用上の特徴	本事例では、東名高速名古屋 IC 出口料金所 10 ゲート中2ゲートに ETC ゲートを組み込んでシミュレーションを行った。ETC ゲートは専用ゲート(2)、混用ゲート(2)、専用ゲート(1)+混用ゲート(1)の3パターンについて検討を行った。							
対象範囲及びネットワーク	対象範囲	名古屋IC周辺 (2700m × 600m)	対象時間帯	平日 7:00~9:00 17:00~19:00					
	評価対象時期	現在 (平成12年)、平成12年 (ETC 普及率 10%)、平成13年 (ETC 普及率 20%)、平成14年 (ETC 普及率 30%)、平成17年 (ETC 普及率 50%)							
	対象道路網	県道名古屋長久手線 (県道60号) および接続する道路 (一般道路、東名高速、東名阪高速)							
	ネットワーク規模	ノード数	31	リンク数	52	起終点ノード数	17	総トリップ数	約 18000/2h
		一般街路ネットワーク		交差点数	6	信号交差点数	6	道路区間数	20
		自専道ネットワーク		分岐部数	3	出入口数	4	道路区間数	8
	特記事項								
(ネットワークの概略図面を添付)									
									
入力データ	道路データ	単路部	リンク長、車線数、リンク容量、ジャム密度、自由流速度						
		交差点部	飽和交通流率、右折専用レーン長、交差点内滞留台数						
		合流部							
	信号制御	設定パラメータ	信号現示、オフセット						
		作成方法	実測データを用いる						
	交通需要	設定単位	OD 交通量						
		作成方法	交通量調査 (平成12年) の各交差点交通量及び右左折率より推定						
空間単位		道路端点およびインターチェンジ							
時間単位		15分単位、2時間							
車両属性区分	小型車、大型車の2種類								
その他									
モデル設定項目	スキャン方式	periodic scan 方式, 1秒/1スキャン							
	パケットサイズ	1台/パケット							
	経路選択原理	固定経路							
	特記事項	経路選択の余地のないネットワーク形状							
再現性検証	キャリブレーション	パラメータ	各交差点流入部の飽和交通流率						
		方法	旅行時間および断面交通量が等しくなるようにパラメータを調整						
	検証方法	旅行時間、断面交通量を用いた検証							
検証用データ取得方法	名古屋長久手線の旅行時間をナンバープレートマッチング調査により収集								
出力データ	1)名古屋長久手線の平均旅行時間 2)名古屋長久手線の断面交通量 3)東名高速名古屋IC出口料金所からの平均旅行時間 4)総旅行時間								
記入者	所属機関・部署	(株)熊谷組 土木本部 社会システム部 交通システムグループ							
	電話	03-5261-5526	FAX	03-5261-9350	HP	http://www.kumagaigumi.co.jp/feature/its/escote.html			
公表文献・資料等									